

株式会社 帝国ホテル

2027年3月期第2四半期（中間期）

決算説明資料



IMPERIAL HOTEL

2026年10月29日 株式会社 帝国ホテル（コード番号 9708 東証スタンダード）

目 次

連結経営成績	・ ・ ・ P. 3
連結損益計算書	・ ・ ・ P. 4
セグメント別	・ ・ ・ P. 5
部門別実績	・ ・ ・ P. 6～P. 8
連結貸借対照表	・ ・ ・ P. 9
連結キャッシュ・フロー計算書	・ ・ ・ P. 10
連結業績予想	・ ・ ・ P. 11
上期トピックス	・ ・ ・ P. 12～P. 14
今後の見通し	・ ・ ・ P. 15
企業情報	・ ・ ・ P. 16

連結経営成績



IMPERIAL HOTEL

- 売上高は前年同期比10.2%増の280億14百万円となりました。利益面では、EBITDAが前年同期比23.9%増、営業利益は59.5%減、経常利益は39.4%減となり、中間純利益は59.3%減の2億15百万円となりました
- 新規開業した帝国ホテル 京都や、営業を再開したタワー館におけるオフィス・テナント再誘致が進んだことにより、増収となりました。
- 一方利益面では、今期は京都開業の初期費用やタワー館再開に伴う投資等が影響し、減益となりました。

単位（百万円）（注）以降の記載金額は百万円未満の端数を切捨てて表示しております。

	2027年3月期2Q	2026年3月期2Q	増減(金額)	増減(%)
売上高	28,014	25,426	2,588	10.2%
EBITDA	1,859	1,501	358	23.9%
営業利益	129	319	△189	△59.5%
経常利益	337	556	△219	△39.4%
親会社株主に帰属 する中間純利益	215	530	△314	△59.3%
1株当たり 中間純利益	円 銭 1.83	円 銭 4.48	△2.65	△59.1%

連結損益計算書

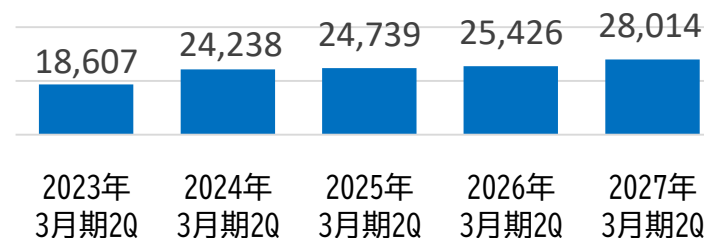


IMPERIAL HOTEL

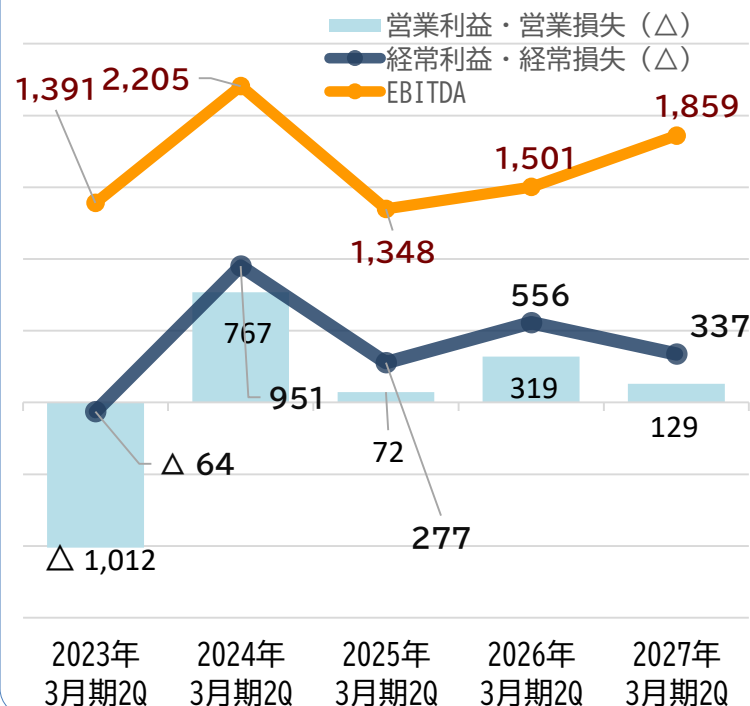
単位 (百万円)

	2027年3月期 2Q	2026年3月期 2Q	増減	増減(%)
売上高	28,014	25,426	2,588	10.2%
材料費	4,943	4,653	290	6.2%
売上総利益	23,070	20,773	2,297	11.1%
販売費及び 一般管理費	22,941	20,453	2,487	12.2%
営業利益	129	319	△189	△59.5%
営業外収益	316	256	59	23.3%
営業外費用	108	19	89	454.9%
経常利益	337	556	△219	△39.4%
当期純利益	215	530	△314	△59.3%
親会社株主に帰属 する中間純利益	215	530	△314	△59.3%
EBITDA	1,859	1,501	358	23.9%

売上高



営業利益・経常利益・EBITDA



セグメント別



IMPERIAL HOTEL

単位（百万円）

			2027年3月期 2Q	2026年3月期 2Q	増減	増減(%)
	ホテル事業	売上高	27,476	25,227	2,249	8.9%
		セグメント利益	1,780	1,523	257	16.9%
	不動産賃貸事業	売上高	541	199	342	172.2%
		セグメント利益	△393	66	△459	—
	調整額※1	売上高	△3	—	△3	—
		セグメント利益	△1,258	△1,270	12	—
	連結財務諸表 計上額 ※2	売上高	28,014	25,426	2,588	10.2%
		セグメント利益	129	319	△189	△59.5%

※1. セグメント利益の調整額は、各報告セグメントに配賦していない全社費用です。

全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

※2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

帝国ホテル本社

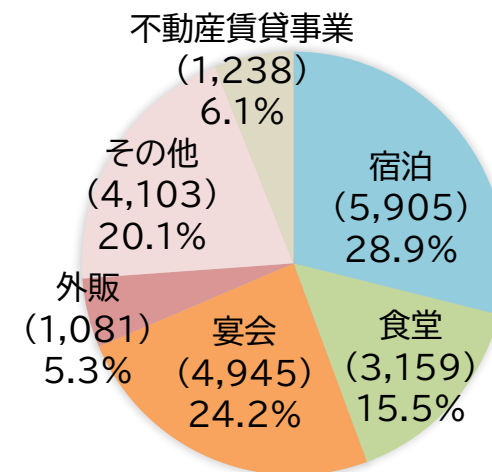
- 宿泊は、タワー館客室の販売再開により、販売可能客室数が増加したほか、好調なインバウンド需要もあり、売上高は同15.6%増の過去最高の59億5百万円となりました。
- 食堂は、高単価販売とビジネス利用が増加したことから、売上高は31億59百万円となりました。
- 宴会は、法人宴会や婚礼などの個人向け宴会の双方で単価増に努めたことから、売上高は49億45百万円となりました。
- 『ガルガンチュワ』開店55周年や宿泊客の増加などに伴い来客数が増加し、各種記念商品の販売も好調だったことから、売上高は10億81百万円となりました。

単位（百万円）

		2026年度2Q	2025年度2Q	増減	増減(%)
ホテル事業	宿泊	5,905	5,110	794	15.6%
	食堂	3,159	2,842	316	11.1%
	宴会	4,945	4,867	78	1.6%
	外販	1,081	981	99	10.1%
	その他	4,103	3,877	225	5.8%
不動産賃貸事業		1,238	867	370	42.7%
売上高合計		20,434	18,474	1,959	10.6%



売上構成比



帝国ホテル 大阪

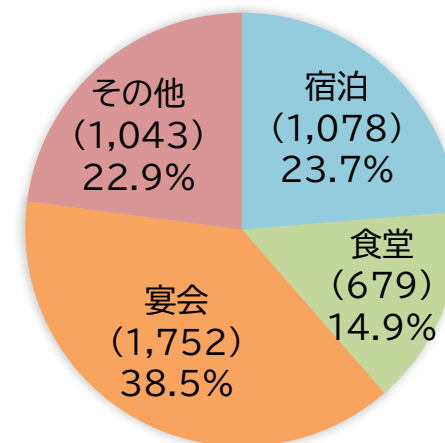
- 宿泊は、昨年の大阪・関西万博の反動を最小限に留めるべく、多様な宿泊プランの販売に努め、OTA（オンライン旅行会社）経由の個人宿泊数は伸長しました。その結果、売上高は10億78百万円となりました。
- 食堂は、30周年を記念した特別メニューや季節商品が好調で、売上高は6億79百万円となりました。
- 宴会は、新規開拓に努めたほか、同特需影響を最小限に留め、婚礼も件数、単価が増加したことから、売上高は17億52百万円となりました。



単位（百万円）

	2026年度2Q	2025年度2Q	増減	増減(%)
宿 泊	1,078	1,573	△495	△31.5%
食 堂	679	686	△6	△1.0%
宴 会	1,752	1,774	△22	△1.3%
その他	1,043	1,077	△33	△3.1%
売上高合計	4,554	5,112	△557	△10.9%

売上構成比



帝国ホテル 京都

開業初年度となる当中間期は、会員顧客をはじめ、国内富裕層を中心に高単価客室の販売が好調に推移し、売上高は10億39百万円となりました。
また、多くのお客様をお迎えし、高い評価をいただくなど順調なスタートを切っており、引き続きブランド力の向上に努めてまいります。

単位（百万円）

	2026年度2Q	2025年度2Q	増減	増減(%)
売上高合計	1,039	—	—	—



上高地帝国ホテル

施設改修による商品価値向上に合わせ、価格へ反映し料金体系を見直し高単価販売を行ったことに加え、食堂や売店も好調に推移したことから、売上高は過去最高の16億87百万円となりました。

単位（百万円）

	2026年度2Q	2025年度2Q	増減	増減(%)
売上高合計	1,687	1,548	138	9.0%



連結貸借対照表



IMPERIAL HOTEL

単位（百万円）

資産	2026年9月30日	2026年3月31日	前期末比	前期末比(%)	主な増減要因
流動資産合計	30,169	34,339	△4,170	△12.1%	有価証券の減少
固定資産合計	51,061	47,529	3,531	7.4%	投資有価証券の増加
資産合計	81,230	81,869	△639	△0.8%	
負債	2026年9月30日	2026年3月31日	前期末比	前期末比(%)	主な増減要因
流動負債合計	16,579	17,618	△1,039	△5.9%	未払金の減少
固定負債合計	15,786	15,174	612	4.0%	長期預り金の増加
負債合計	32,366	32,793	△427	△1.3%	
純資産合計	48,864	49,076	△212	△0.4%	剰余金の配当
負債・純資産合計	81,230	81,869	△639	△0.8%	

自己資本比率	2026年9月30日	2026年3月31日	2025年3月31日
	60.2%	59.9%	65.7%

連結キャッシュ・フロー計算書

2026年4月1日から2026年9月30日まで

単位 (百万円)

	2027年2Q	2026年2Q	増減	増減(%)
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,651	930	1,721	184.9%
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,899	△878	△3,021	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△593	△801	208	—
現金及び現金同等物の期首残高	22,328	19,939	2,389	12.0%
現金及び現金同等物の中間期末残高	20,487	19,189	1,297	6.8%

連結業績予想



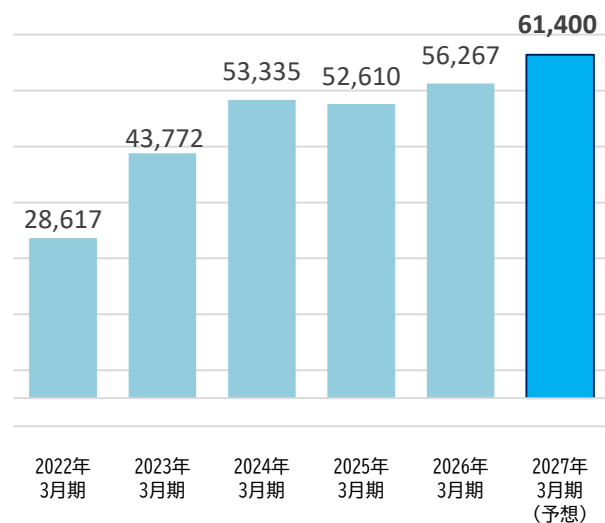
IMPERIAL HOTEL

単位（百万円）

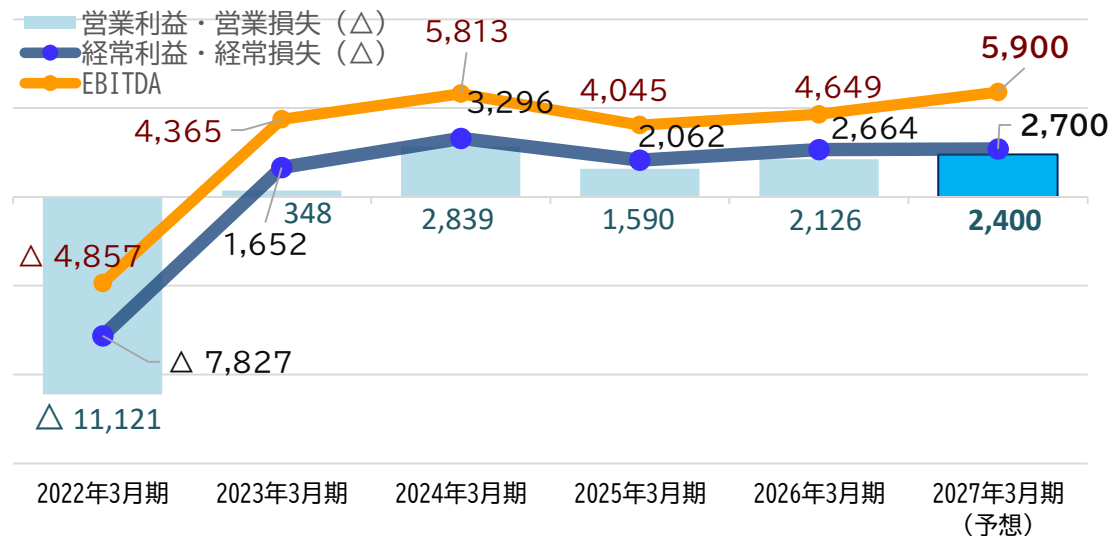
	2026年 3月期	2027年3月期(予想)	
		通期	
売上高	56,267	61,400	9.1%
営業利益	2,126	2,400	12.8%
経常利益	2,664	2,700	1.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,290	1,850	△56.9%
1株当たり当期純利益	36円22銭	15円 62銭	

%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率

売上高



営業利益・経常利益・EBITDA



中地区における新規事業計画の推進

本館に隣接する中地区において、高層階における新ブランドのスマールラグジュアリーホテルや、低層階における最新の映像音響施設を備えた新たな宴会場の運営を実現すべく検討を進めており、成長投資を推進いたします。

「帝国ホテル 京都」の認知向上を推進

海外富裕層や旅行代理店へのアプローチを強化した結果、世界的ホテルネットワークLHWやアメックス上級会員向けホテル予約プログラムAMEX FH&Rに加盟したほか、「ミシュランキーホテルセレクション2026」にて「1ミシュランキー」を獲得いたしました。



マーケティング力の強化

グループ全体のマーケティングやブランディング戦略、顧客政策を担う部署として、全事業所から独立したマーケティング部を新設し、全社的なデジタルマーケティングの最適化や、海外の認知度向上に向けた取り組みを実施しました。

顧客政策の拡充

ID（帝国ホテルのデジタルアカウント）を基盤としたロイヤルティプログラムを2027年春以降に開始することを決定しました。帝国ホテルでの年間のご利用額に応じたステータスを用意して特典を提供することにより、ロイヤルティと売上の向上に努めてまいります。



タワー館におけるオフィス・テナントの再誘致

タワー館地下1階の旧レストラン街や、1階から4階の「帝国ホテルプラザ 東京」跡地に新たなテナントの入居が決まるなど、タワー館の施設を有効に活用していくことで売上と利益の拡大に努めております。



周年企画による販促施策

- ・「帝国ホテル 大阪」開業30周年
各種記念プラン・商品の販売を行いました。

30 っないでいく、
歩んでいく。
th Anniversary



- ・「帝国ホテル 東京」
ホテルショップ『ガルガンチュワ』開店55周年
記念商品の販売を行ったほか、
予約取り置きシステムを拡充しました。



食べ残しの持ち帰り「mottECO」普及活動

食品ロス削減推進を目的とした「mottECO FESTA 2026」に参画し、当社導入事例を業界団体に向けて発信したほか、その他環境配慮の取り組みの認知拡大に努めました。



「エンタの街 日比谷 打ち水月間」に合わせた新規アクティビティ

海外からの宿泊客向けに「Uchimizu Experience」を今年度初めて開催し、日本の文化体験とお客様との新たなコミュニケーションの創出を通じたインバウンド付加価値向上と、地域社会との連携を推し進めました。



人権デュー・デリジェンスの取り組み

事業活動と関係する人権に対する負の影響を特定し、防止・軽減させることを目的に、人権デュー・デリジェンスの構築に取り組んでいます。

社内では全従業員を対象としたアンケートを実施し、優先的に取り組むべき人権課題を特定し、予防是正措置を進めています。主要パートナー企業、取引先に対しても人権課題に関連する調査を開始し、サプライヤーとともに社会課題に取り組み、持続可能なサプライチェーンの構築に努めております。

■事業環境

今後の見通しにつきましては、国際情勢や金融資本市場の変動などの影響を引き続き注視する必要がありますが、回復基調が続く個人消費や好調なインバウンド需要を背景に、ホテル・観光業界におきましても堅調な需要が続くことが見込まれます

■各取り組み

1. 中長期経営計画

今後の見通しにつきましては、国際情勢や金融市場の動向などの影響を引き続き注視する必要がありますが、回復基調が続く個人消費や好調なインバウンドを背景に、ホテル・観光業界におきましても堅調な需要が続くことが見込まれます。

当社グループにおきましては、改訂した中長期経営計画のもと、「タワー館営業再開・京都本格稼働期間」における収益力の最大化とキャッシュの創出に全力で取り組むべく、タワー館を活用した不動産収益力の強化を推進しております。タワー館地下1階の旧レストラン街や、1階から4階の「帝国ホテルプラザ 東京」跡地に新たなテナントの入居が決まるなど、タワー館の施設を有効に活用していくことで売上と利益の拡大に努めております。また、顧客拡充と満足度向上に向けて、2027年春以降に帝国ホテルの会員組織を「インペリアルメンバーシップ」として刷新いたします。日々のご利用実績に応じた優待や特典をご提供することで、これまで以上にお客様一人ひとりのご希望に沿った上質なサービスをお届けしてまいります。

さらに、隣接する中地区で建設が進むNTT日比谷タワー（2031年竣工予定）では、高層階に新ブランドのスマールラグジュアリーホテル、低層階に最新の映像音響施設を備えた宴会場の運営を予定しており、事業基盤の拡大による企業価値向上を目指してまいります。

2. 人的資本への投資など

サステナビリティ推進につきましても、当社の価値創造の原点である従業員が生き生きと働き、お客様へのサービスを向上させることが、持続的な企業価値の向上につながるという考えのもと、人的資本への投資に引き続き注力してまいります。

企業情報



IMPERIAL HOTEL

社名：	株式会社 帝国ホテル
本社所在地：	東京都千代田区内幸町1-1-1
創立年月日：	1887年(明治20年)12月14日
開業年月日：	1890年(明治23年)11月3日
上場年月日：	1961年(昭和36年)10月2日
代表取締役 社長執行役員：	風間 淳
資本金：	14億8500万円
発行株数：	118,800,000株(2026年3月31日現在)
従業員数(連結)：	1,899名(2026年3月31日現在)
主要な事業所：	帝国ホテル 東京、上高地帝国ホテル、帝国ホテル 大阪、 帝国ホテル 京都、ザ・クレストホテル柏

主な連結子会社

(株)帝国ホテルエンタープライズ	コミュニティホテル(ザ・クレストホテル柏)運営 等
(株)帝国ホテルサービス	ホテル付帯サービス(清掃・警備) 等
(株)帝国ホテルハイヤー	旅客自動車運送、駐車場管理

関連会社

(株)帝国ホテルキッチン	調理食品製造販売
(株)ニューサービスシステム	バンケットサービス 等



帝国ホテル 東京



上高地帝国ホテル



帝国ホテル 大阪



帝国ホテル 京都